2026年7月1日
91号

かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所：株式会社日立製作所ひたちなか総合病院
〒312-0057
ひたちなか市石川町20番1
029-354-5111
発行人：渡辺　明宏
編　集：広報委員会
※バックナンバーは当院ホームページに掲載しております。

ごあいさつ
－地域を護る病院として－

院長　吉井　慎一

日頃より当院の医療にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
2017年から始まった「地域医療構想」は、2025年に向けて、地域ごとの医療体制の見直しを進めてきました。
本来、2040年にかけては高齢化が進み、入院を含めた医療の需要は増えていくと予測されていました。一方で、2024年では、新型コロナウイルス感染症の影響もあって、全国的に入院患者数は減少傾向にあります。また、医療従事者の不足も深刻な課題となっています。

こうした状況について、あるAIは「入院患者が減っているにもかかわらず、将来は需要が増えると言われるのは矛盾ではなく、医療の提供の形そのものが変わりつつあるためである」と指摘しています。つまり、今後増えていく医療の多くは、「病院の外」で提供されるようになるという考え方です。

このことを考える中で、2018年に放送されたNHKスペシャル「AIにきいてみた どうすんのよニッポン」を思い出しました。この番組では、「日本人の健康寿命を延ばすには何が必要か」という問いに対し、AIが「医療資源、特に病院を減らす」という、当時としては衝撃的な結論を示しました。その背景には、「病院が多く、受診しやすい環境が必ずしも健康につながるとは限らない」という考え方があります。医療へのアクセスが良いほど、「具合が悪くなればすぐ診てもらえる」という安心感から、生活習慣の改善など予防への意識が低くなる可能性があります。その結果、生活習慣病が増え、医療はその治療や延命には役立つものの、健康な期間（健康寿命）を伸ばすことには直接つながらない場合もあるという指摘です。つまり、健康寿命の多くは医療機関の中ではなく、日々の生活習慣や社会環境によって大きく左右されるという考え方です。

もっとも、このような考え方には注意も必要です。医療の質や役割の違い、専門医療と一般診療の違いなどは十分に反映されておらず、単純化されている面があります。また、医療資源を減らした地域で健康意識が高まったという事例もありますが、それがどこでも同じように実現できるとは限りません。さらに、医療体制の縮小が、必要な支援を受けられない人を生む可能性がある点にも配慮が必要です。

当院は、日立製作所の企業立病院として302床の規模を持ち、これまで地域の急性期医療を中心に役割を果たしてきました。今後は、その役割を大切にしながらも、「地域の中で何を担うべきか」をより明確にし、他の医療機関との連携を一層強化していくことが重要です。具体的には、重症の患者さんに対応する高度な急性期医療・専門医療の体制を維持・強化するとともに、地域の診療所や在宅医療との連携を深め、患者さんが必要な医療を途切れなく受けられる仕組みを整えていきます。また、病気を重くしないための取り組みとして、健診や生活習慣病の管理などにも積極的に関わり、地域全体の健康づくりにも貢献してまいります。

医療資源が限られる中では、「すべてを病院で抱える医療」から「地域で支え合い、つなぐ医療」への転換が求められています。病院はこれからも地域医療の中心であり続けますが、単独で完結するのではなく、多くの関係機関と協力しながら役割を分担していく存在へと変わっていく必要があります。

大切なのは、これからの地域医療の姿を見据え、従業員一人ひとりが同じ方向を向くことです。そのうえで、限られた資源をどこに活かすかを考えながら、「選ばれる病院」であり続けることが、結果として地域の皆さまの健康寿命の延伸につながるものと考えています。

ひたちなか総合病院・総合健診センター　休日のお知らせ

	日	月	火	水	木	金	土
7月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

	日	月	火	水	木	金	土
8月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

	日	月	火	水	木	金	土
9月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

ひたちなか総合病院・総合健診センター　休日

連　携　室　通　信

腎臓内科　山木医師

腎臓内科　山木医師

　皆様、はじめまして。本年4月より腎臓内科に着任いたしました、山木　謙太郎（やまき けんたろう）と申します。

　私はこれまで、腎炎の治療や慢性腎臓病（CKD）の保存期治療、そして血液透析・腹膜透析と二つの腎代替療法まで、腎疾患全般の診療に深く携わってまいりました

　現在、CKDは年々患者数が増加し「新たな国民病」とも言われています。将来透析になる方を一人でも減らすため、地域の先生方と緊密に連携し、CKDの早期発見・早期治療に尽力してまいります。また、透析治療においては、患者さんの命綱である「シャント」のトラブルへの迅速な対応や、より自由度の高い生活を可能にする腹膜透析の管理を強みとしています。

透析室

　私の診療におけるモットーは、患者さんの人生の「伴走者」であることです。腎臓病は長く付き合っていく必要のある病気ですが、ただ数値を追うだけでなく、患者さん一人ひとりが「自分らしく」過ごせることを最優先に考え、対話を重視した診療を心がけています。

　また、日本医師会認定健康スポーツ医として、最新の知見に基づいた運動療法の提案にも力を入れており、病気があってもアクティブに過ごせる体づくりを多角的にサポートいたします

　私自身も体を動かすことが大好きで、ランニングで汗を流したり、筋力トレーニングに励んだりするのが日課です。体を動かす喜びを通じて、皆様と明るく前向きな関係を築けるような親しみやすい医師でありたいと願っています。

腎臓のこと、日々の健康づくりのこと、どうぞお気軽にご相談ください。

透析室スタッフ

地　域　の　病　院　紹　介

脳神経外科ブレインピアひたちなか

林基高　院長

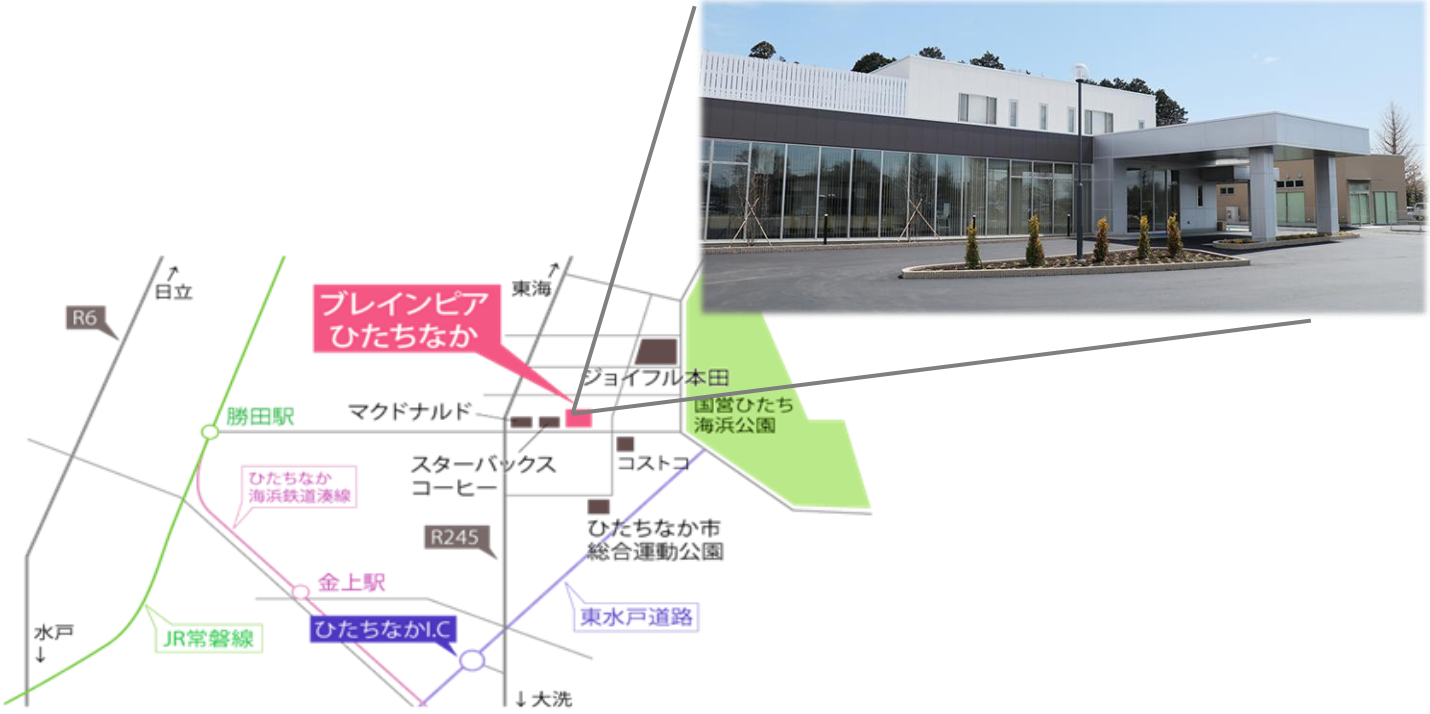
当院はMRIとCTを有し、令和元年5月より脳卒中や頭部外傷、頭痛等の脳疾患、虚血性心疾患や不整脈などの心疾患を中心に診療させて頂いております。

これまでもひたちなか総合病院とは、さまざまな診療科の先生方に連携を取らせて頂いておりますが、特に神経内科の先生方には大変お世話になっております。

脳神経外科と神経内科は、大きな差の無いように思われるかもしれませんが、我々脳神経外科医が得意としていない神経難病や認知症、てんかんなど、幅広い脳疾患を診療してくださる大変心強い存在です。いつもありがとうございます。

今回の診療報酬改定で「特定機能病院等紹介患者受入加算」が新設されました。この加算は、ひたちなか総合病院で急性期治療を終えた患者さんを当院がしっかりフォローしなければならないというメッセージであると考えております。

当院の役割をしっかり見つめ、地域医療に邁進してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



医療連携に関するお問い合わせは「地域医療連携係」へ
8:15～16:30（月曜日～金曜日）
TEL：029-354-5202（直通）FAX：029-354-5220（直通）

機　器　更　新　の　ご　案　内

高性能MRI装置「ECHELON Synergy ZeroHelium」導入のお知らせ

当院では、2026年3月に富士フイルム株式会社社製の最新MRI装置「ECHELON Synergy ZeroHelium」を導入しました。従来のMRI装置は、大量の液体ヘリウムにより装置を冷却しておりましたが、本装置は液体ヘリウムを使用せずに稼働可能な新世代のMRI装置です。

本装置では、MRI検査で課題とされていた・・・
「**検査時間の長さ**」や「**装置内の圧迫感**」の軽減が図られています。

最先端のAI技術（Deep Learning）を駆使することで、短時間でも高画質なMRI画像の撮像が可能となりました。また、装置内部が従来機種より約10 cm広くなったことで圧迫感が軽減され、より快適に検査を受けていただけるようになりました。頭部検査では、顔の前面を覆わない固定具で検査可能となったため、閉塞感も軽減されました。

本装置は、健診脳MRI検査や外部医療機関からの紹介検査をメインに使用しておりますので、お役立ていただきますよう、お願いいたします。MRI検査についてご質問がございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

頭部用固定具

富士フイルム株式会社製ECHELON Synergy ZeroHelium

院　内　紹　介

ALSOK昇日セキュリティサービス株式会社（警備員）

我々警備員の主な業務は、鍵管理・巡回・機器の監視など、さまざまです。その中で重要なことは、患者さん・病院スタッフの安全・安心の確保となります。安全・安心の確保については、周囲の方々の協力が必要な部分も多くあります。
有事の際は、ご協力いただければと思います。

警備員スタッフ

各警備員で警備経験に差はありますが、安全・安心を確保するという気持ちの部分では、全員が一つになって行動出来ると確信しております。わからないことがあれば気軽にお声がけください。

健　康　メ　モ

夏の紫外線対策　　健診センター　谷口　文

これからの季節、紫外線が気になりますよね。紫外線の浴び過ぎは、日焼け、しわ、シミ等の原因となるだけではなく、長年紫外線を浴び続けていると、時には良性、悪性の腫瘍や白内障を引き起こすことがあります。
しかし、紫外線は悪い影響ばかりではなく、カルシウム代謝に重要な役割を果たすビタミンDを皮膚で合成する手助けもします。正しい知識を持ち、紫外線の浴び過ぎに注意しながら上手に紫外線とつきあっていくことが大切です。

■白い服と黒い服、紫外線と暑さ対策に効果的な選び方
夏になると、涼しさを感じる白っぽい服を選ぶ方が多いのではないでしょうか。

白い服は光を反射しやすく見た目は涼しげですが、生地によっては紫外線を通しやすいことがあります。
一方で、熱を反射するため、体感温度を上げにくいというメリットがあります。暑さ対策を優先する場合は、
白や淡い色＋**UVカット加工**が施されているものが良いでしょう。

紫外線対策という面では、黒や濃い色の服の方が紫外線を通しにくいと言われています。黒い色は紫外線を吸収しやすく、肌まで届く紫外線を減らしてくれます。紫外線が強い時間や日焼け予防を重視する場合には、黒やネイビーなどの濃い色の服が役立つでしょう。しかし、黒い服は熱も吸収しやすいため、屋外では暑く感じやすいことがあります。夏の外出では、暑さ対策とのバランスも大切です。

これからも、暑く、紫外線が強い日が続きます。
帽子や日傘、サングラスなども上手に活用しながら、紫外線対策を心がけ、夏を元気に過ごしましょう。

医　師　異　動

担当科	氏　名	異動日
総合内科	折笠　陽風	退職（2026.6.30）
	福本　巴亜人	採用（2026.7.1）